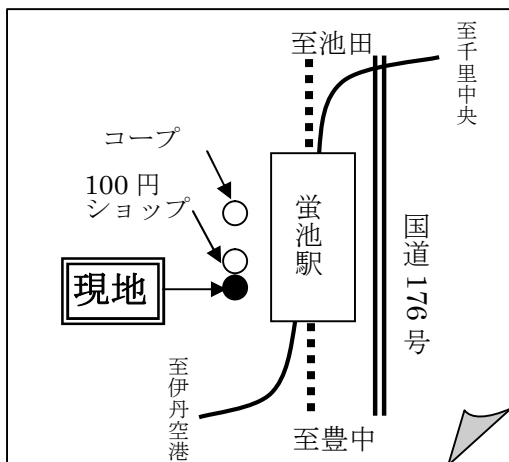


松岡あきみち(26)と さあ、行こか!



☆後援会事務所を新設しました☆

これまで新千里南町に自宅兼事務所をおいて活動してまいりました。これから、より多くの方に松岡あきみちの活動を知っていただくため、後援会事務所を新たに開設いたしました。近くまでお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。

新千里南町の自宅兼事務所も継続して、活動の拠点となっており、蛭池事務所と行き来しますので、事務所へお越しの際は事前にご連絡ください。(蛭池事務所：06-6853-2910)

19万人のみなさん、動いてください。

低くて当たり前化しつつある投票率



若者の政治離れ
 関心がないわけじゃない!
 託せる人がいないだけ!!

組織票で当選する政治家

政党や各種団体が集める組織票。
 息子などに引き継がれて世襲に。

若年候補者の皆無
 現職の豊中市議の
 平均年齢は 57 歳

緊張感のない政治家
 駅前に立つのは選挙の時だけ。当選すれば、次回まで安泰。

組織のために政治利用
 一部の人たちに選ばれた議員が、一部の人たちに利益を誘導する…という図式。

この19万人 (若者や利害関係のない人々)の多くが選挙に足を運ぶことで、クリーンな (一部に偏らない) 政治が実現できます。

癒着・腐敗政治へ

若い視点で新しい豊中市政を創造します。

豊中の有権者は約 30 万人。例えば、ある組織が 5 万票をもっていると、組織票の割合は 16.6%。市議会の定数は 36 議席ですから、6 議席を確保することになります。

ところが、実際に動いている有権者は約 11 万人ですから、5 万票の組織票が占める割合は 45.4%。すると、この組織は議会で 16 議席を確保することになります。

こうして議会では、現実以上に組織の意向が強く反映されるのです。議会を適正にするためにも、私たち一人一人が動かないといけません。

組織票の割合の低い議会にするため、松岡あきみちとともに無所属無党派でのまちづくり活動を推進していきましょう。

松岡あきみち (26才) プロフィール

- ・ しんでん幼稚園→南丘小学校→第九中学校→北野高校→同志社大学法学部政治学科。小、中、高校で生徒会長、豊中市中学生シンポジウム実行委員長を務める。
- ・ 池田市長、北摂の国会議員、地方議員のもとで政治の現場を学んだ後、箕面市公共下水道事業運営審議会委員を務める。近隣の市政について学び、条例改正にも携わる。
- ・ JAバンク大阪の職員として地域経済、消費生活について学ぶ。休日は、NPO活動の取り組みや豊中ラグビースクールコーチとして過ごす。18 年末に退職して、政治の道を志す。



とよなか創政記

「豊中の財布と人口」 松岡あきみち

私が子どもだった頃、豊中は活気がありました。日本経済の好景気を背景に、インフラ整備が進み、日本初のニュータウンが開かれ、多くの人々が豊中に移り住み、町は若い世代でにぎわい、豊中の税収は増えました。こうして豊中は、日本有数の住宅都市として、発展してきました。

しかし、バブル崩壊で日本経済が低迷し、中小企業の多い豊中では地域経済が悪化しました。仕事を失って、この町を去る人が増え、治安の悪化、既存施設の老朽化、少子高齢化で、住環境が変わりました。

大人になった現在、豊中の竹馬の友が次々に結婚しています。そしてそのまま、次々と豊中を去っていきます。若者への手当が厚い大阪市内、新しい街、彩都のある箕面市、茨木市へ引越しています。働きざかりの若い世代が減ることで、豊中市の五人に一人、とりわけ千里ニュータウンでは四人に一人が高齢者となっています。

人口移動で高齢化が進むと、豊中の財布が破れてしまいます。「歳入の五分の一を占める個人市民税は、九十七年度から減少を続け、ピーク時の三百八十億円（九十一年度）から二百四十三億円（〇四年度）にまで減った。（読売新聞）」

豊中の財布と人口の問題は、まだ山積しています。団塊世代の大量退職時代を目前に、豊中の高齢化は一層加速し、歳入の減少が予測されます。一方で、歳出はどうか。介護、子育てなど社会保

障費は増大していきます。さらに、万博の際に急速に普及させた下水道網が、もうすぐ老朽化によって、再配管が必要になってきます。

歳入が減り、歳出が増える。こうした赤字体質をいつまで続けるのでしょうか。赤字体質が続けば、財政は破綻します。財政破綻、つまり豊中市が倒産すれば、北海道夕張市のようになってしまいます。市民病院が市民病院でなくなり、成人式が行えず、あらゆる行政サービスが廃止・縮小します。

どうすれば、豊中は活気を取り戻せるのか。財布の見直しと人口規模の維持が重要な課題です。短期的には、徹底的な歳出削減で、財布を歳入に見合った大きさにしなければいけません。長期的には、多世代が暮らせる街にしなければいけません。若者が集まる街、子育てしやすい街、働きやすい街、余生に夢をもてる街にいきましょう。そうすることで、豊中の財布と人口の問題は改善されるはずです。

五十年後、日本の人口が九千万人と推計されるなか、豊中だけが人口を増やすことは困難です。現在の人口規模を維持できるような社会の変化に対応した、市民のニーズに対応したまちづくりを進めていかななくては、いけません。



（母校の豊中九中で、中学三年生に講演）

豊中は去年七十歳になりました。七十一歳を迎える今年、大きく舵取りが求められています。これまで関心を持ってこなかった若者をはじめ、市政に参加してこなかった十九万人のみなさん、動いてください。

これから半世紀にわたって豊中が豊中らしくあるために、五十年以上にわたってこの町を見届けられる若い世代に託してください。みなさんとともに、みなさんのお子さん、お孫さんとともに豊中のまちづくりを進めていきます。

「温故創新」のバックナンバー（vol.1〜3）は、ホームページよりご覧いただけます。どうぞご覧ください。

みなさんのご意見ご感想をお聞かせください。

松岡あきみち後援会（千里事務所）

06-7178-7785

office@matsuoka-akimichi.net



◆事務所ボランティアスタッフ大募集◆

「温故創新」の配布や、発送作業などをお手伝いいただけませんか？配布はご近所の数件でも数十件でも結構です。無理なく、気持ちよく、可能な範囲で応援をお願いいたします。

◆松岡あきみちの熱い思いを聞いていただける方、お声かけください◆

松岡あきみちがお伺いします、ご連絡ください。（蛍池事務所：06 - 6853 - 2910）